

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 12 日作成)

委員会名	地震荷重小委員会	主 査 名：藤堂正喜
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (振動運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：篠崎祐三
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	地震荷重小委員会では、地震に対する建築物の要求性能を満たす設計の今後の方向性を示唆する枠組み、内容について総合的に検討し新しい地震荷重評価法を構築すること、さらにこれらを刊行物にまとめることを目的に活動している。	
委員構成 (委員名(所属))	主査：藤堂正喜(戸田建設) 幹事：大川 出(建築研究所)・林 康裕(京都大学) 委員：石山祐二(北海道大学)・太田外気晴(足利工業大学)・壁谷澤寿海(東京大学)・壇一男(清水建設)・飛田 潤(名古屋大学)・松村和雄(鹿児島大学)・翠川三郎(東京工業大学)・緑川光正(建築研究所)・曾田五月也(早稲田大学)・安井 謙(福井工業大学)・北村春幸(東京理科大学)・香川敬生(地域地盤環境研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	地震荷重刊行物編集WG ：刊行物の作成・発刊を円滑に実施するための活動	
2003 年度予算	550,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	6 月 18 日・11 名、 9 月 9 日・12 名、 11 月 5 日・15 名、 1 月 9 日・8 名、 3 月 11 日・11 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 建築物の耐震性能を明らかにする性能設計のための地震荷重を展望し、今後の地震荷重の評価方法を構築するために下記の活動をし、成果が得られた。</p> <p>検討内容 地震荷重・耐震設計法の現状、地震・地震動評価の現状、性能設計用地震荷重の骨子 これらについて討議し、詳細内容が詰められた。</p> <p>シンポジウムの開催 上記の検討をふまえて、「地震荷重 性能設計への展望」と題するシンポジウムを 11 月 6 日に開催した。当日は、委員以外に 181 名の参加を得た。</p> <p>シンポジウムではパネリストによる発表に加えて、パネルディスカッションと総合討論を実施して、小委員会以外の会員諸氏からも有意義な意見を得ることができた。</p> <p>委員会 HP ホームページ： (一昨年は開いており、2004 年度にも再開設したい)</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 小委員会で目的としている性能設計のための地震荷重評価法の構築に関する検討は、小委員会内およびシンポジウムにおいて十分に実施したと考える。刊行物の作成については、予定よりやや遅れ気味なので、2004 年度には進捗度をあげる予定である。
その他評価すべき事項	荷重運営委員会で実施している、「建築物荷重指針・同解説」の改定版における地震荷重関連の委員会と意見交換を行って、横断的活動も実施した。